

## 特集

世界に届いた  
日本の高校生の素顔

海外の若者からの反響とメッセージ

2001年5月から2002年3月にかけて、イギリスでは大型日本文化紹介行事 Japan 2001が開催され、歌舞伎や狂言などの伝統的な日本文化だけでなく、現代の日本人の日常生活に密着した文化として、ポピュラー音楽やアニメまで幅広く紹介されました。

イギリスの公益法人JFET(ジャパン・フェスティバル・エデュケーション・トラスト)では、Japan 2001の公式教育プログラムの一環として、TJFの「高校生の生



活フォトメッセージコンテスト」に寄せられた作品を使用した写真展をイギリス各地で開催し、さらにイギリスの若者の姿を日本の若者に伝えてもらおうと、TJFのフォトメッセージコンテストのイギリス版コンテストも開催しました。

本号では、イギリスの若者から届いたフォトメッセージと、世界の若者が日本の高校生の作品をどう受けとめたか、その反響をまとめました。

## 特集 世界に届いた日本の高校生の素顔

イギリスで開催された  
日本の高校生のフォトメッセージコンテスト作品展 p.2

イギリスの若者の心をとらえた写真 p.4

イギリスでもフォトメッセージコンテスト開催 p.6

## TJFの事業 p.9

中国の小中高校の日本語教育現場を訪ねて

## シリーズ

見る聞く考えるやってみる授業⑩ p.12

K高校から見える日本社会と国際理解教育の役割

素顔の高校生⑫ p.16

前向きに生きている姿を撮ってみたかった。

## TJFニュース p.14

※今号から「TJFの事業」の内容を一新し、新たに「TJFニュース」を設けました。

■特集 世界に届いた日本の高校生の素顔

# イギリスで開催された 日本の高校生のフォトメッセージコンテスト作品展

2001年5月上旬、ロンドンのヘンドンスクールを皮切りに、「The Way We Are: Japanese High School Students' Lives (伝えたい私たちの素顔)」写真展はイギリス各地を巡回しました。主催者のJFETが用意した作品5セットは、各地の中学・高校や図書館などの教育機関からの要望に応じて、1ヵ所につき2週間、延べ75ヵ所を回り、合計約10万人が鑑賞したと推計されています。

作品はパネル25枚を1セットにまとめました。25枚のパネルのうち、20枚はTJFのフォトメッセージコンテストの1997年から99年の入賞作品(5枚の組写真)20作品を1枚ずつパネルにし、残りの5枚はファッションや食べ物などテーマごとに、それぞれ5人の撮影者の作品を集めたものです。JFETでは生徒向けにアクティビティブックを制作し、写真のキャプションと撮影者のメッセージ、語彙リストやアクティビティを掲載して、日本の文化や社会全般についても理解を深めてもらうよう工夫しています。

写真展を開催した機関を対象にJFETが行ったアンケートの結果によると、開催機関の85%は学校、残りは公共図書館などで、学校の場合、責任者の担当教科は日本語、地理、美術・写真が大半を占めています。開催機関の97%はこの写真展を他の機関にも推薦したいと答え、82%は機会があればもう一度この写真展を行いたいと希望していました。こうした反響を踏まえて、JFETではJapan 2001の終了後も継続して写真展を開催していきたいと考えています。

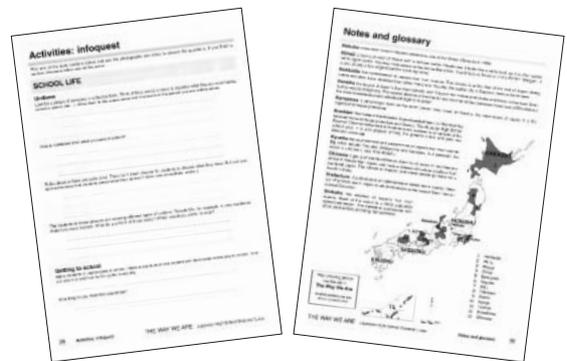
写真展を見た人々からは、「着物や寺院の写真にはない、



写真展を見学する生徒たち

新しい日本の姿が見られた」「日本の若者との共通性に気づいた」「作品に共感した」といった感想が寄せられ、素顔の若者の姿を紹介することで相互理解をめざすTJFとJFETの活動の目的が達成されたのではないかと考えています。

右ページに、生徒から寄せられた感想の一部をご紹介します。(原文英語)



日本についての理解を深めるためのアクティビティブック



イギリスの新聞Daily Express紙の週末特集版Saturdayに掲載された記事(2001年5月5日発行)



学校で写真展を見て、日本の生徒たちの個性の多様性が印象的でした。たくさん言葉よりも、一枚の写真の方が多くを語るというのは本当だと思います。 **ローリー・アストン**

とくにサチヨ・ツジの写真は、ドキュメンタリー写真と芸術写真を結びつけた素晴らしい作品です。車椅子の少年の世話をしたり食事を介助したりする主人公の姿には、強く訴えるものがあり、同時に事実の記録としても意味があります。

**クワン・オセイ・アグエイマン**



写真：1999 辻幸代

ダイエットをしている主人公を写したノリコ・オヤマの作品が特に気に入っています。これは普遍的なテーマを描いていると思います。 **ケイディー・ネビソン**



写真：1998 小山典子



写真：1998 佐伯直俊

写真展を見てどの写真も素晴らしいと思いました。一番好きなのはナオシ・サエキのお雑煮を食べている女の子の写真です。男の子とおじいさんを写したアキコ・クロダの作品も気に入っています。この写真には温かさや相手を思いやる気持ちが表現されています。 **アンジェリク・ワード**



写真：1998 黒田明子

異なる文化や社会をもつ日本の若者の写真が、私たちとよく似た生活スタイルを描いているのに感銘を受けました。

**アンナ・ウィリアムソン**

この写真展を見て、私たちが同じようなことをしているのだと知り驚きました。買い物やマニキュアをし、友達と出かけたりマクドナルドで食べたり。日本の若者について多くのことを学びました。 **ステイシー・ローリー**

# イギリスの若者の心をとらえた写真

ハイディ・ポッター (JFET事務局長)

私たちの物事に接する態度は、人間関係によって形成されることが多いものです。ある科目が生涯嫌いになったのは、特定の先生との関係が良くなかったことが原因になっているかもしれません。同様に、ある言語や国に対する関心も、たまたま友好関係を結んだことからはぐくまれるのかもしれませんが。

JFET(ジャパン・フェスティバル・エデュケーション・トラスト)は、イギリスの小中高校で行われている日本についての授業を支援するために、1992年に設立されました。1991年に開催されたジャパン・フェスティバルの後、授業を行う際の情報や支援を求める声が多くなったために、フェスティバルの教育プログラムが発展してできたものです。

現代日本の生活について、イギリスの若い人々にどのように理解を深めてもらえばよいかは、JFETの課題の一つです。富士山や芸者などの伝統的な日本のイメージは、イギリスでも依然として強く残っています。そうしたイメージは大切な意味があるからというよりも、便利だから用いられることが多いのです。教科書に掲載されている都市の風景や近代的な交

通網、モダンな家に住む家族などの写真ですと、生徒から強い共感を得たり、生徒の想像力を刺激したりすることはなかなかできません。

そうしたことから、TJFが開催しているフォトメッセージコンテストの1997年の入賞作品が届いた時には、これだと思いました。日本語教育に役立つ写真ですが、他の科目でもインパクトがあることは明らかでした。狭い教育的観点から撮ったのではなく、若者のさまざまな関心を反映しており、その上、一人の主人公を5枚の組写真で表現しているため、個性のある実在の人物が写し出されていました。他の教材には見られない生命力や鋭さが、この写真にはありました。

Japan 2001では、多くの生徒たちにこの写真を届けることができました。JFETは、25枚のパネルからなる展示セットを5つ作り、延べ75ヵ所で展示を行いました。反響は非常に肯定的でした。写真が生き生きとしていて鮮やかだったという感想が寄せられ、見た人が写真の主人公と一体感をもっている様子がかがわれました。

パネルには意図的にキャプションは付けず、写真をして語

## 海外から寄せられた反響

TJFではフォトメッセージコンテストの作品を写真集『伝えたい私たちの素顔 The Way We Are』(14ページの記事参照)や、ホームページを通じて海外の同世代に届けています。作品に触れた海外の若者たちの手紙から、日本の高校生との相違に気づいたり共感したりしながら、日本の若者をより良く知るために写真を活用している様子がかがわれます。同時に、同じ写真を見ても、国や人により受けとめ方が異なることも興味深いことです。「自分たちの素顔を日本に伝えよう」と、写真やメッセージを送ってくれた海外で日本語を学んでいる高校生たちもいます。こうした世界の若者からの反響を日本に紹介することで、このコンテストが、日本から海外へと一方通行ではなく、双方向の交流へと進んでくれることを願っています。ここでは、日本語を学ぶ海外の生徒から届いた手紙や写真から、一部をご紹介します。

### ■中国

◇日本の高校生の生活ぶりがよくわかりました。みんな精一杯生活して自由を求め、遊ぶときは楽しく遊んで、勉強の時は一生懸命するなど、たくさんの共通点があります。一方、中国の高校生と違ったところがたくさんあります。私たちは毎日午前7時40分から11時30分まで4時間の授業があるし、午後1時から4時5分まで4時間の授業を受けて、夜11時まで勉強します。2週間に1日しか休めませんから、バイトをする時間もチャンスもありません。私たちは自分の希望する大学を目指して勉強しています。競争が激しいのでよく勉強しなければなりません。(原文日本語)

黒龍江省鶏東朝鮮族中学\*千鳳花

\*中学は中国では日本の中学高校全体をさして使われることが多い。

◇日本の高校生はどのように勉強し生活しているのかを知りたいです。日本語の授業で先生はよく日本や日本の高校生についてのことを話してくれますが、これだけでは私の疑問

に完全に答えられません。しかし、『伝えたい私たちの素顔』を通じて、私は日本の高校生を初めて認識しました。私はいつか機会があったら自分の目で日本の姿を見たいのです。そして日本語に近づけば近づくほど日本へ行きたくくなります。緑いっぱい自然風景、独特な風習などいろいろところが私をひき付けています。それが私を促して「日本を認識しよう」と一生懸命に日本語を勉強しています。

(原文日本語) 遼寧省阜新県蒙古高級中学 甘珊丹



■中国  
寮の部屋で。寮生活をしている高校生は多い。

らしめるようにしました。学校の授業でこの写真を使用した経験から、生徒たちには写真を「読む」ための手引きが必要であると考え、キャプションや撮影者と主人公のメッセージを載せた小冊子を作りました。小冊子にはアクティビティシートを付けて、生徒が写真をじっくりと見られるようにしました。アクティビティには、5枚の写真を見て主人公のストーリーを書く課題や、生活様式などについて指示に従って考える問題などが載っています。

JFETでは、写真展と並行して、このコンテストのイギリス版を開催しました。14歳から18歳までのイギリスの若者に、写真で自分たちの生活を紹介してもらおうという試みです。入賞作品はJFETのホームページ (<http://www.jfet.org.uk/>)でもご覧いただけますが、日本の生徒にイギリスの同世代のことをよりよく知ってもらうために、いずれ日本各地を巡回するかもしれません。

「The Way We Are」写真展が大成功だったのは、大人の介入なしに、若者同士が国境を超えて語りあうことを可能にした点にあります。生活態度や生活様式など国によって多くの

違いがありますが、外国の文化を個人にとって意味のあるものにする上で、写真展の作品は役立つものと確信しています。

本稿はTJFで翻訳・編集しました。



JFETのホームページより

### ハイディ・ポッター

ロンドン大学卒業(日本語専攻)

1984~87年：兵庫県淡路島の中学・高校などで英語を教える

1988~92年：在イギリス日本大使館文化担当。1991年のジャパン・フェスティバルに関わる

1992年：ジャパン・フェスティバル・エデュケーション・トラストの設立時から現職

### ■カナダ

バーナービー・マウンテン・セカンダリー・スクールの日本語クラスの生徒からのメッセージ

◆写真集はとてもよく編集されており、いろいろなタイプの日本の10代の若者を紹介しています。一人ひとりが異なっていて、ユニークな生活を送り、いろいろなことに関心を持っています。生徒たちの一日のスケジュールについて、もっと知りたいと思いました。それぞれの高校の紹介があればもっといいと思います。(原文英語)

ケビン・ラウ(11年生)



■カナダ  
日本語クラスの生徒たち

◆日本の高校生の一日のスケジュールや、学校がどんなコースを提供しているのか、生徒がどんなコースをとっているのかを知りたいと思いました。写真も全部カラーだったらよかったですと思います。生徒のEメールアドレスを載せてくれると、質問できるのですが。写真集に載っている高校生は、他人に自分たちの生活を見せるのですから、みんな勇気があるなと思いました。(原文英語)

リンゴ・ウオング(11年生)



■アメリカ  
生徒が作った作品集『伝えたい私たちの笑顔2002』

### ■アメリカ

カリフォルニア州のマリン・アカデミー(私立高校)の日本語クラスでは、『伝えたい私たちの笑顔』を日本語の読解や文法、文型、語彙などの勉強に教材として活用しています。生徒にとっては、教科書にはない生きた日本語に触れる良い機会だそうです。日英2か国語で自分たちのフォトメッセージの制作にも取り組んでいます。生徒がコンピューターで編集して作った作品集『伝えたい私たちの笑顔』をご覧ください。



# イギリスでも フォトメッセージコンテスト開催

JFET (ジャパン・フェスティバル・エデュケーション・トラスト)では、TJFのフォトメッセージコンテストの趣旨に賛同し、そのイギリス版コンテスト「The Way We Are: Everyday Life of Young People in the UK」を2001年度に開催しました。「イギリスの若者の姿を、若者自身の作品によって日本の若者に伝えてもらおう」と、このコンテストはTJFのコンテストにならない、5枚の写真とメッセージを募集しました。

イギリス全土から寄せられた75点の応募作品中、審査の結果、第1位のシャーロット・リドルさん(18歳)はじめ18人の入賞者が決定し、2002年2月28日にロンドンで授賞式が開催されました。リドルさんは「私と私の大切なもの」と題した作品で、家族や靴、マークする自分自身、自分の部屋を描いています。第1位の副賞として日本への往復航空券が贈呈され、リドルさんはこの秋に来日する予定です。

第2位にはマイケル・ダグラスさん(16歳)とナオミ・メラーさん(18歳)の作品が選ばれました。ダグラスさんは大都市ロンド



授賞式に出席した入賞者たち

ンの若者の暮らしを描き、メラーさんはローラーコースターにたとえて、良いときもあれば悪いときもある若者の生活を表現しています。入賞者の作品には、若者だからこそ写せる生き生きとした姿が描かれ、そこには日本の若者との相違点と共通点が浮き彫りにされています。



イギリス版コンテストのチラシ



Japan 2001日本国内実行委員会発行のパンフレットでも写真展が紹介された



## ■ コンテスト開催の背景

近年イギリスの初中等教育レベルの日本語学習者は増加傾向にあり、最新の調査によると、日本語教育機関は270校、学習者は約8500人であった。一方、1988年に実施されたナショナル・カリキュラムでは、11歳から14歳の生徒に対し、地理の教科でソ連(当時)・アメリカと比較しながら日本について学習することが必修とされた(後に改定され、現在は選択制とな

っている)。JFETでは日本理解教育に取り組む教師に対して、資料の提供やアドバイスなどさまざまな支援をしているが、ホームページ上では、日英の学校間のリンク(School Links)を媒介したり、日英の生徒がテーマごとに意見交換する場(Japan UK Live)も設けている。Japan UK LiveはJapan 2001と同時に終了したが、再開が検討されている

## “Me and Co\*!”

### 「私と私の大切なもの」

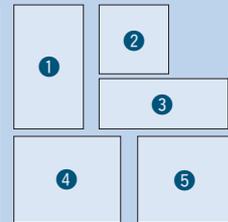
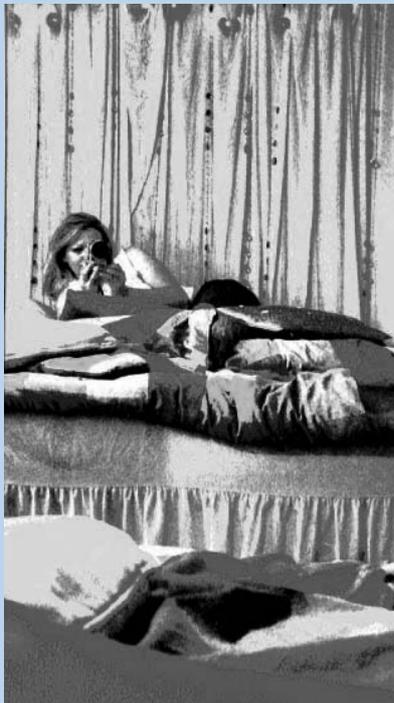
私は私の毎日の生活を写真で描いた。私の生活にとって大切なもの、すなわち家族とお化粧と靴と私自身の部屋を写した。私は靴にはとてもこだわりがあり、写すのはとても楽しかった。靴は世界中で一番すてきなものだ。もちろんボーイフレンドの次にだけど。

❖ Charlotte Liddle (18)  
Queen Elizabeth's 6th Form College, Darlington

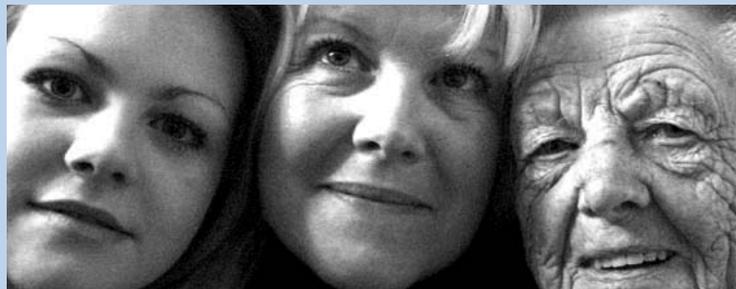
❖ シャーロット・リドル (18歳)  
クイーン・エリザベス・シックス・フォーム・カレッジ\*\*、ダーリントン

\* co は company (仲間、友だち、自分自身の身近にある大切なもの) のこと。

\*\* シックス・フォーム・カレッジは日本の高校2～3年生に相当する生徒が通う学校。



- ① 私の部屋へようこそ!
- ② いたーい!!!
- ③ 私とママとママのママ
- ④ メイクがなかったらどうしよう?
- ⑤ 靴が大好き!



## “Life of the Young”

### 「若者の生活」

ロンドンの若者の生活は、世界中の他の都市の若者の生活と似ている。映画の大きなスクリーンで見るとよなものばかりではないけれど。

◆Michael Douglas(16), Christ the King 6th Form College, London  
◆マイケル・ダグラス(16歳)、キリスト・ザ・キング・シックス・フォーム・カレッジ、ロンドン



コミュニケーション

2位

## “The Teenage Rollercoaster of Life”

### 「10代の生活はローラーコースター」

この写真のメッセージは、英国であろうと海外であろうと世界中どこでも、10代の若者には良いときも悪いときもあるということ。一晩出かけて騒いだあとには必ず次の朝が来るし、チームスポーツの仲間との友情にもかかわらず、負けたときにはがっかりして立ち直れそうもなくなる。

◆Naomi Mellor(18), Withington Girls' School, Manchester  
◆ナオミ・メラ(18歳)、ウィジントン・ガールズ・スクール、マンチェスター



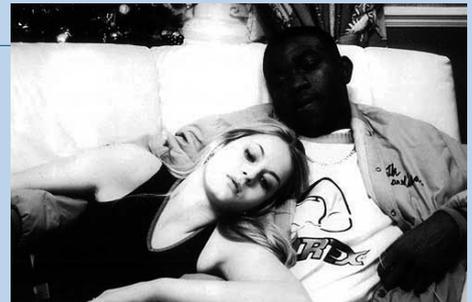
ランカシャー郡ラクロスチーム、中休みの話し合い

## “New Age Britain”

### 「新時代の英国」

今日の世界は、異なる人種の人々が、平和にまた調和しつつ共に生きていくことが可能であるし、可能でなくてはならない。なぜなら人は皆平等であり大切に扱われるべきだから。私はそんなことを強調しながら、時代が変わってきていることを写真で表現しようとした。

◆Emma Burton(16), Christ the King 6th Form College, London  
◆エマ・バートン(16歳)、キリスト・ザ・キング・シックス・フォーム・カレッジ、ロンドン



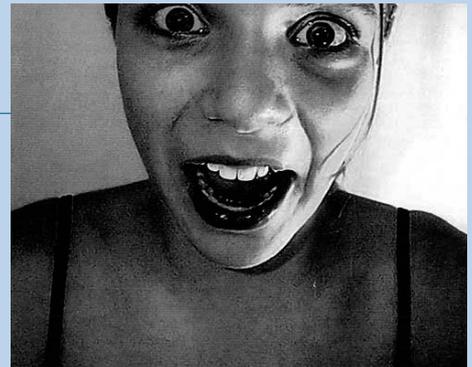
ソファでテレビを見ている私とマイケル

## “My Sister, Rachel”

### 「妹のレイチェル」

私はよく知っていて大好きな妹のレイチェルを主人公にした。私より年下だけど、感心もし、尊敬もしている。

◆Amy Stephenson(18), Queen Elizabeth's 6th Form College, Darlington  
◆エイミー・ステイプンソン(18歳)、クイーン・エリザベス・シックス・フォーム・カレッジ、ダーリントン



ふざけているときにクローズアップで撮った写真

3位

## “After College – Just Another Day”

### 「放課後—いつもの一日」

私は友達のリンダを紹介しようと思った。リンドは16歳で、私たちは6年近く親しくしている。いつも一緒に過ごしていたけれど、カレッジに入学してからはほとんど会う機会がなくなってしまった。この写真では、素顔の彼女を表現しようとした。

◆Stephanie Weekes(17), Christ the King 6th Form College, London  
◆ステファニー・ウィークス(17歳)、キリスト・ザ・キング・シックス・フォーム・カレッジ、ロンドン



バス停で立ち食い中